スペイン・ラテンアメリカ美術史研究会2024年度冬季研究会

アルフォンソ10世とその時代：独創と継承

1252年にカスティーリャ王に即位したアルフォンソ10世は、多彩な文化事業に注力し、「賢王」のあだ名で知られています。いわゆる「大レコンキスタ」の立役者である父フェルナンド3世の後を継ぎ、一気に拡張したカスティーリャ王国の統治に苦心しながらも、神聖ローマ帝国の皇帝選に打って出るなど大きな野心を抱いていました。

美術的にはゴシック様式がヨーロッパ各地で花開いた時代を駆け抜けたアルフォンソ10世、彼の時代とその文化を、歴史学、建築史、文献学、美術史の視点から考察します。

2024年11月30日（土）13:00～17:30
於　東京外国語大学　本郷サテライト4Fセミナー室
アクセス　https://www.tufs.ac.jp/abouttufs/contactus/hongou.html

＊対面のみでの開催となります

13:00-13:20 趣旨説明　久米順子（東京外国語大学）
13:20-14:05「アルフォンソ10世の治世の意義――「十二世紀ルネサンスの時代」と「危機の時代」にはさまれた激動の時代」黒田祐我（神奈川大学）
14:15-15:00「13世紀イベリア半島における大聖堂の建設　継承・抹消・適応」伊藤喜彦（東京都立大学）
15:10-15:55「アルフォンソ10世の世俗古謡」瀧本佳容子（慶應義塾大学）
16:05-16:50「カンティーガス『豪華写本』挿絵における物語展開と革新的コマ割り技法」浅野ひとみ（長崎純心大学）
17:00-17:30 全体討論

共催：科研基盤研究(C)「中世イベリア世界の多文化共生再考：アルフォンソ10世賢王時代に関する学際的研究」